

科目名	ゲーム強化演習1						年度	2026	
英語科目名	Game Instructor Seminar 1						学期	前期	
学科・学年	スポーツ健康学科三年制 テニスコース 1年次	必/選	必	時間数	60	単位数	4	種別※	演習
担当教員	植村、和田、HY-PROJECT、柳田	教員の実務経験		有	実務経験の職種		日本スポーツ協会公認テニスコーチ4/プロテニスプレイヤー/日本スポーツ協会公認ソフトテニスコーチ4/日本スポーツ協会公認テニスコーチ4・日本スポーツ協会公認ソフトテニスコーチ1		
【科目の目的】 試合形式の実戦を通じて、自身の課題や到達点を確認します。また、プレーヤーに求められる心技体のスキルを学び、外部大会での上位進出を目指して個人およびチームで戦う力を養います。									
【科目の概要】 テニス・ソフトテニスともに学内・学外で試合形式を行います。									
【到達目標】 A 試合形式を通じて内発的に自身の到達点と課題を分析し、言語化できる B ダブルスにおいてプレーヤーとして求められる心技体のスキルを發揮できる C シングルスにおいてプレーヤーとして求められる心技体のスキルを發揮できる									
【授業の注意点】 遅刻・欠席の場合は授業開始までに連絡をすること。授業時数の4分の3以上出席しない者は評価することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	試合形式を通じて内発的に自身の到達点と課題を分析し、言語化できる		試合形式を通じて内発的に自身の到達点と課題を分析し、言語化することがある程度できる		試合形式を通じて自身の到達点と課題を分析し、言語化することがあまり上手いかない				
到達目標 B	ダブルスにおいてプレーヤーとして求められる心技体のスキルを發揮できる		ダブルスにおいてプレーヤーとして求められる心技体のスキルをある程度發揮できる		ダブルスにおいてプレーヤーとして求められる心技体のスキルをあまり上手く發揮できない				
到達目標 C	シングルスにおいてプレーヤーとして求められる心技体のスキルを發揮できる		シングルスにおいてプレーヤーとして求められる心技体のスキルをある程度發揮できる		シングルスにおいてプレーヤーとして求められる心技体のスキルをあまり上手く發揮できない				
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】 必要に応じて適宜資料を配布します									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 試験と課題を総合的に評価します。積極的な授業参加度、授業態度によって評価します。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ゲーム強化演習1			年度	2026
英語表記		Game Instructor Seminar 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	学内・学外大会①	試合形式を通じて自身の課題や到達点を確認する。	1 試合準備	運営・準備、ウォーミングアップ等が適切に行える	2	
			2 試合中	個人・ペアで設定した目標や日頃の練習をもとにパフォーマンスが発揮できる		
			3 試合後	運営・片付け、クールダウン等が適切に行える		
2	学内・学外大会②	試合形式を通じて自身の課題や到達点を確認する。	1 試合準備	運営・準備、ウォーミングアップ等が適切に行える	2	
			2 試合中	個人・ペアで設定した目標や日頃の練習をもとにパフォーマンスが発揮できる		
			3 試合後	運営・片付け、クールダウン等が適切に行える		
3	学内・学外大会③	試合形式を通じて自身の課題や到達点を確認する。	1 試合準備	運営・準備、ウォーミングアップ等が適切に行える	2	
			2 試合中	個人・ペアで設定した目標や日頃の練習をもとにパフォーマンスが発揮できる		
			3 試合後	運営・片付け、クールダウン等が適切に行える		
4	学内・学外大会④	試合形式を通じて自身の課題や到達点を確認する。	1 試合準備	運営・準備、ウォーミングアップ等が適切に行える	2	
			2 試合中	個人・ペアで設定した目標や日頃の練習をもとにパフォーマンスが発揮できる		
			3 試合後	運営・片付け、クールダウン等が適切に行える		
5	振り返り・練習	ダブルス・シングルスにおける課題改善	1 課題や到達点の確認	自己・他已分析で課題や到達点を理解できる	2	
			2 基礎・応用	基礎練習から応用のパターン形式で得点へ結びつけることができる		
			3 栄養講座	試合前中後に必要な栄養知識を理解する		
6	学内・学外大会⑤	試合形式を通じて自身の課題や到達点を確認する。	1 試合準備	運営・準備、ウォーミングアップ等が適切に行える	2	
			2 試合中	個人・ペアで設定した目標や日頃の練習をもとにパフォーマンスが発揮できる		
			3 試合後	運営・片付け、クールダウン等が適切に行える		
7	学内・学外大会⑥	試合形式を通じて自身の課題や到達点を確認する。	1 試合準備	運営・準備、ウォーミングアップ等が適切に行える	2	
			2 試合中	個人・ペアで設定した目標や日頃の練習をもとにパフォーマンスが発揮できる		
			3 試合後	運営・片付け、クールダウン等が適切に行える		
8	学内・学外大会⑦	試合形式を通じて自身の課題や到達点を確認する。	1 試合準備	運営・準備、ウォーミングアップ等が適切に行える	2	
			2 試合中	個人・ペアで設定した目標や日頃の練習をもとにパフォーマンスが発揮できる		
			3 試合後	運営・片付け、クールダウン等が適切に行える		
9	学内・学外大会⑧	試合形式を通じて自身の課題や到達点を確認する。	1 試合準備	運営・準備、ウォーミングアップ等が適切に行える	2	
			2 試合中	個人・ペアで設定した目標や日頃の練習をもとにパフォーマンスが発揮できる		
			3 試合後	運営・片付け、クールダウン等が適切に行える		
10	振り返り・練習	ダブルス・シングルスにおける課題改善	1 課題や到達点の確認	自己・他已分析で課題や到達点を理解できる	2	
			2 基礎・応用	基礎練習から応用のパターン形式で得点へ結びつけることができる		
			3 栄養講座	試合前中後に必要な栄養知識を理解する		
11	学内・学外大会⑨	試合形式を通じて自身の課題や到達点を確認する。	1 試合準備	運営・準備、ウォーミングアップ等が適切に行える	2	
			2 試合中	個人・ペアで設定した目標や日頃の練習をもとにパフォーマンスが発揮できる		
			3 試合後	運営・片付け、クールダウン等が適切に行える		
12	学内・学外大会⑩	試合形式を通じて自身の課題や到達点を確認する。	1 試合準備	運営・準備、ウォーミングアップ等が適切に行える	2	
			2 試合中	個人・ペアで設定した目標や日頃の練習をもとにパフォーマンスが発揮できる		
			3 試合後	運営・片付け、クールダウン等が適切に行える		
13	学内・学外大会⑪	試合形式を通じて自身の課題や到達点を確認する。	1 試合準備	運営・準備、ウォーミングアップ等が適切に行える	2	
			2 試合中	個人・ペアで設定した目標や日頃の練習をもとにパフォーマンスが発揮できる		
			3 試合後	運営・片付け、クールダウン等が適切に行える		
14	学内・学外大会⑫	試合形式を通じて自身の課題や到達点を確認する。	1 試合準備	運営・準備、ウォーミングアップ等が適切に行える	2	
			2 試合中	個人・ペアで設定した目標や日頃の練習をもとにパフォーマンスが発揮できる		
			3 試合後	運営・片付け、クールダウン等が適切に行える		
15	振り返り・練習	ダブルス・シングルスにおける課題改善	1 課題や到達点の確認	自己・他已分析で課題や到達点を理解できる	2	
			2 基礎・応用	基礎練習から応用のパターン形式で得点へ結びつけることができる		
			3 栄養講座	試合前中後に必要な栄養知識を理解する		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等